



第 24 回修道会総会

修道会コミュニケーション と技術通信チーム コーディネーター報告

パメラ・オブライエン パトリシア・ストルツ

背景

種子

ひとつになること。協力し合うこと。相互支援。

この3つの修道会の本質的価値が、特別なチャレンジの機会と共に 21 世紀の土台の地に植えられました。[計画立ち上げ]

先の総会における、シスターメリー・マハーによる修道会状況報告の次の言葉を覚えていられるでしょうか。

「私たちは、一つの修道会として共に考え、行動する新しい方法を支援していくために、会全体のコミュニケーション計画を実践しなければなりません。」 (2012 年 9 月 24 日)

この言葉に含まれている修道会の本質的価値が聞こえるでしょうか。修道会コミュニケーション計画の必要性が認識されたのです、種子は植えられました。

土壌の準備

[スライド 2-3] 実は発端としては、先の総会よりはるか以前、2010 年 9 月にウィルトンで開催された第 9 回拡大総会 (EGC) まで戻ることができます。その時の拡大総会メンバーは、すでに修道会内のコミュニケーション計画の必要性を表明していました。

[スライド 4-5] 総会は計画作業を開始しました。各修道会からシンクタンクとして 40 名のシスターと信徒職員が集合し、2011 年 8 月にセントルイスで会合が開かれました。シスター達は希望と夢を持ち寄りました。

[スライド 6] シンクタンク会議の成果に基づき、総会は修道会コミュニケーション委員会を結成しました。委員会メンバーは、情報を収集し、コミュニケーション計画の概要を創案しました。

[スライド 7] 情報収集に当たり、委員会は 10 か国語にて、修道会内でアンケート調査を行いました。これがその結果です。

土壌は準備されました。

種の植え付け

委員会の作業結果は第 23 回総会に報告されました。

[スライド 8] 総会は修道会コミュニケーション計画の展開と実践を推し進めることを総評議会に委任しました。そのうえで次の 2 つの実行計画を決議しました：

[スライド 9] 実行計画「すべてを共有する」において、実践項目の一つと設定されたこと：

「… 言語問題、テクノロジー技術の使用、それに会員同志、私たちの使命職を通じて、また適切な外部の人々とのネットワークの構築を考慮に入れた、修道会コミュニケーション計画の発展と実践を支援する。」（2012 年 10 月 23 日承認）

[スライド 10] 修道会コミュニケーション計画に関して具体的に述べている実行計画の第 2 点は、次です：

「私たち、第 23 回総会のメンバーは、次期総評議会がリーダーシップを取り、修道会コミュニケーション委員会の成果に基づき作成されたコミュニケーション計画を展開させていくことを進言します。」（2012 年 10 月 10 日承認）

種は植え付けられました。

果実をもたらすために

計画の発展と実践はこの総評議会の重要な仕事上の展望でした。

[スライド 11] 総評議会は、修道会コミュニケーション委員会を形成するために、会内の各地からシスター達、信徒職員達を招集しました。この委員会は、分かりやすいコミュニケーション計画の展開のために、実際の会合で、あるいはオンライン通信で連絡交換し合いました。

[スライド 12] 2014 年 12 月 20 日、委員会は修道会コミュニケーション計画の最終案を総評議会に提出しました。ここに委員会のメンバーが総評議会に提出した計画案のコピーがあります。

この計画に果実をもたらすために、全修道会は、それぞれの頭と、心と手のすべてを巻き込んだのです。

[スライド 13] 私たちは豊かな実を得ることができました、そして今は滋養を与える時、修道会生活を強化するときです、統一と、協力と相互支援を強化する時なのです。

実践

計画は2種の新しいグループの形成を必要としました：それぞれがコーディネーターを有した修道会レベルでのコミュニケーションチームと通信技術チーム、それに管区レベルでの両チームとの連絡担当係です。

2016年1月1日付で、修道会通信技術チームコーディネーターとして、パメラ・オブライエンが指名されました。修道会コミュニケーションチームのコーディネーター、パトリシア・ストルツはすでに任務にありました。各管区もコミュニケーションチームと通信技術チームとの連絡担当を指名しました。

[スライド 14] 2016年2月に、管区連絡担当と修道会コーディネーターはローマで初めて全員集合し、CCTTチームのメンバーとして任命され、修道会コミュニケーション技術通信チームを形成しました。私たちチームは、10人の信徒職員と10人の教育修道女会シスターで構成されました。それは、このチームの最初の会議となりました。

[スライド 15] 修道会コミュニケーション技術通信チーム (CCTT)

CCTTチームはどのように機能するのでしょうか。ここに2つのチームの関連作業を映し出す、修道会コミュニケーション計画の背景となる概要を示すイラストがあります。

[スライド 16] これがその図です。

[スライド 17-18] この円の中に人々の顔を置きます。

おそらく皆さんは、この中の何人かは存知でしょう。数名はローマでの2月の会議には出席していなかったことにお気づきでしょう。このことは私たちが直面し続ける現実を示しています、チームメンバーは変わるということです。青とオレンジの背景のひし形は、2つのチームの協力関係を示しています。青い楕円形は修道会と私たちの仕事の内容を映し出しています。

では、私たちの活動と交流を示すために少し動きを加えてみます。

[スライド 19] 私たちは大きなチームとしていつも働いているわけではありません。ウェブサイト内容制作、ウェブデザイン、共通アイデンティティ像作成、インフラ設備の障壁、言語翻訳、訓練などといった明確なプロジェクトに当たり、それぞれより少数の作業グループを構成しました。少人数のグループの方が早く作業ができ、また会議もより効果的であり得るからです。グループの作業成果は、CCTTチームの残りのメンバーに伝達され、ついでチームは、各管区評議会担当者に報告と意見を求め連絡を取ります。次いで、提案として総評議会に届けられます。こうした通信の流れが私たちの活動と情報交換の動きです。

[スライド 20] 管区コミュニケーション担当は、CCTTチームの仕事に極めて重要で欠かせない貢献者です。担当責任者たちは各々の管区を修道会のコミュニケーションチームと通信技術チームの尽力的作業を結びつけ、ひとつに統合にするのです。各管区のコミュニケーション担当は直接管区評議会との連絡に責任を負います。各メンバーはまたチームに意見を報告し、プロジェクトを実践する責任を持ちます。

[スライド 21] 2016年2月の最初の会合以来、CCTT チームのメンバーは、ビデオコンファレンスを通じ、またグループメッセージ送信で、あるいは電話で連絡交換を続けています。

[スライド 22] これがコミュニケーションチーム会議のズーム写真です。皆さんのために微笑んでくださいと頼みました。

[スライド 23] 私たちは、メール通信はもちろんのこと、トレッド、ワッツアップ、ワンドライブ、ヤンマーなどのソーシャルネットワークサービスを利用して情報を共有しています。

この報告を通して、私たちが推し進めてきたいくつかのプロジェクトについて、次にさらに詳しくお分かりになるでしょう。

パムとパットの各管区への視察訪問

[スライド 24] ご存知のように、私たちは2016年4月から2017年2月までの間、各管区を回る視察の旅を実施しました。

[スライド 25] 私たちの視察の目的は次の2点でした：

1. コミュニケーションと通信技術の観点から見た各管区の現状をよりよく知ること、
2. 修道会コミュニケーション計画を実践していくうえで、各管区が必要とする支援面を調査すること。

現状をよりよく知るために、管区が選択し用意してくれた場所や人々を、私たちは訪問しました。それはまた、私たちが将来共に働くことになる人々と知り合う良い機会となりました：通訳翻訳家、ウェブページ担当のシスター達、技術面でシスター達を補助する人々など。

[スライド 26] 私たちはまた、その国のシスター達にとって歴史的文化的意味のある場所、例えば、日本の京都の神道神社、スロベニアのブレジェにある聖母マリア大聖堂、ポーランドのワルシャワ蜂起博物館、ブラジルのフォス・ド・イグアスなどを訪れました。数分間写真を一緒に観てみましょう。こうした経験は、私たちがその地の文化を少しでも理解する上で、役に立ったと思います。文化を理解すること、多様性に敏感であることはコミュニケーションの改良には必然な要点です。

[スライド 27] 各管区訪問の後、私たちは総評議会から示された集中的質問に沿って第一印象を書きました：

1. 私たちは何を学んだか？
2. 何が必要と確認したか？
3. 視察中に私たちの内面で何が起こったか？
4. 言語、ネットワーク、通信技術に関して次の段階として見えるものは何か。

次に私たちの考察を総評議会、各管区評議会そして管区連絡担当に報告し共有しました。

2017年2月に、私たちは、総評議会とコミュニケーションと通信技術計画に関する評価について意見交換をし、次の段階へ推し進めるために2日間の会合を持ちました。私たちはま

た、インフラ設備の障害、アクセス、コミュニケーション通信技術の使用、スムーズなコミュニケーションを得るための最良の実際業務についても討議しました。この報告の中で、さらに詳しくお分かりになるでしょう。

計画はどのように修道会生活の一部となったのでしょうか。

[スライド 28] この部門では、計画の実践が、修道会内でどのように明確な効果を生むようになったかについて討議したいと思います。まず私たちの修道会コミュニケーションと通信チームのメンバーによる展望から始めましょう。

地方管区の CCTT 担当者に、コミュニケーション計画の結果、生活や仕事に何か明らかな変化があったかどうかを尋ねました。答えは次のようなものでした：

[スライド 29] 「…討議の際、また決定を成す場合、私たちはより世界的視野で考えるようになったと思います。」

[スライド 30] 「私は自分のネットワーク連絡網を広げました。管区の決断の影響が修道会に及ぼすことを考慮し、以前とは違った考え方、行動をするようになりました。」

[スライド 31] 「互いをよく知ることは、共に働くことを容易にします。」

[スライド 32] 「私は支援されていると知り、周囲の環境を受け入れることで、母国語ではない言葉で仕事をするにあまり気遣いをしなくなりました。」

ネットワーク連絡網の構築

[スライド 33] ネットワーク構築目標 4 は、「シスター達、アソシエイト会員、信徒職員の皆さんに、個人的にまた共通の利益や使徒職を通じて連結し合う可能性を持てるよう支援すること」です。そのための最初の実施過程は、「共通の使徒職や、共有する懸念事項、そして言語や文化知識に基づいて世界中で連結し合うことができるプログラムを作成し、仮想的バーチャル共同体を創り出すよう勇気づけること」です。（ネットワーク作成 4a）

CCTT チームがこの目標に近づくための方法のひとつとして、私たちの間の共同体感覚を深める術を見つけることでした。もし私たち自身が、遠距離、時差、言語と文化といった問題を克服できないとしたら、私たちチームが、そうした目標に向かって努力している修道会を手助けすることなどできるはずはありません。

[スライド 34] 「ひとつの修道会として協力し、考え行動する新しい方法を支援する」というネットワーク構築計画の目標は、様々の方法で実現されつつあります。現在修道会の新しくなった表象シンボルがあります、それは目標 2 の主題、共通のアイデンティティー像を表すものです。私たちはまた、多数言語による修道会の外部公開サイトについて作業を始めています。これは 2018 年初期に公開されることになっています。修道会各地の CCTT チームのメンバーたちは、新しい修道会ウェブサイトや、会員それぞれのフェイスブック頁への参加の促しなどを含めて、オンライン上の様々な分野における共同作業に携わっています。

[スライド 35] 修道会内での連絡や外部との連結のために、また修道女会関連サイトの交換拠点、情報供給源として、国際フェイスブックページが、2016 年に作成されました。

多くの学校や教育機関、同様に管区やシスター達はすでにアカウントを有していたため、催し物、祝賀などの写真の交換が即座に可能になりました。また内在する簡単な翻訳機能はしばしば利用価値があります。

[スライド 36] ひとつの修道会として考え行動するという、ネットワーク構築目標は、確実なインターネット接続が難しい地域の人々に、改良の可能性を供給するというチャレンジを私たちに課しています。また私たちは、経費、不安定な電源供給、限られたインフラ設備などの障壁を軽減するため、最新技術を駆使して解決に努めていますが、ブロードバンド高速通信回線を利用できる地域の人々も、コミュニケーション媒体として、低帯域幅ネットワークや、モバイル携帯電話の通信の導入を考慮に入れるべきでしょう。例えば、私たちの管区訪問の際、インターネット接続が制限されている地域では、容易なメッセージ送信方法であるワッツアップがシスター達に広く使われていることを知りました。私たちも、チームメンバーとの時間制約のある情報交換が必要な時、メール通信を補充するためにワッツアップを使用し始めました。

[スライド 37] 管区視察訪問の際に設けた聞き取りの機会を通して、シスター達、アソシエイト会員、信徒職員たちが、修道会内の同種の職に携わる人々と意見を交わし、共通の問題を討議するような可能性に興味を示していることがわかりました。少なくとも、同じような仕事に携わる人がどこに居るかを容易な方法で知ることができればという願望がありました。私たちは、共通の職務にあり、また互いに交換し合う関連事項を有する人々のために、安全な個人的スペースを供給できる内部ネットワーク環境を模索しているところです。最新の内部ネットワークは私たちの必要性を満たすかもしれません。次いでさらにより詳しくわかってくるでしょう。

[スライド 38] 2016年ローマで直接顔を合わせた会議において、私たちはお互いに、トレッコのようなオンラインプロジェクトの使用プログラム、またブルージーンズや、スカイプ、ズームなどのビデオコンフェレンス方式について意見を交わしました。私たちは各プログラムを評価したうえで、低帯域幅ネットワークの参加者同様、修道会のすべての言語で利用できるものを探しました。例えば、修道会で使用されている3種のビデオコンフェレンス方式は、モバイル機器でのアプリを使って接続できますが、スカイプはマンツーマン会議の付加自動翻訳チャット機能があります。このため、またすでに修道会内の多くのシスター達が使用しているという理由などから、言語学習指導パートナーシップ開始のためにスカイプが選ばれたのです。

言語

[スライド 39] コミュニケーション計画の言語目標は、言語と文化が修道会にもたらしている多様性とその深い意味を理解するよう促すことです。スカイプを利用した英語学習個別指導パートナーシップの開始は、言語と文化の違いから生まれる障壁を乗り越え、相互理解を深めるための有益な手段のひとつです。

個別指導パートナーシップというアイデアは、管区視察訪問の間に生まれました。流暢に話せる者でさえ、国際会議において母国語ではない人々の英語に、特に前もって練習する機会のない人の話し方には、聞き慣れるために数日かかるものと気づかされました。私たちは数年前にシスター達の間で、スカイプを通じ英語の学習練習をしているという私的な協力活動

について耳にしたことを思い出したのです。同じような語学練習の機会の必要性が他の管区からも聞かれた時、私たちは総評議会にこの試みについて提案しました。個別指導パートナーシップは、即座に立ち上げられ、修道会中で熱意を持って受け入れられました。

[スライド 40] 私たちは次いで、言語学習への協力関係を築くことは役に立つかどうかを知るためにアンケート調査を行いました。86人中65人のシスターが質問に答えてくれました、82%が、最良またはとても良いと答えています。82%が最良かとても良いという一方、34%（22人の回答者）は、言語能力を改良することは難しいと答えています。ただひとり、役に立たないと言っており、また多くの人は是非で答えるのではなく、意見を表明する方を選んでいきます。

[スライド 41] 多くの人が組織的な指導計画を提案していました、また相手に自らの学習計画を任せることに賛成すると述べている人も多数でした。時差の違いや多忙な日常についても言及され、また頻繁に起こる接続技術上の困難さも共に挙げられました。最も多く利点として述べられていたのは、多文化の管区を通して会員たちの間で交流関係を築くことができるということでした。

ひとりのシスターはこう述べています、「学習指導は良いアイデアです、が私たちが四六時中連結し続けるのは、重複になってしまうのではないのでしょうか。」

[スライド 42] シスター達は学習指導パートナーシッププログラムに参加希望の様々な動機を述べています。さらなる語学学習と友情を結ぶことに加えて、次のような事を好ましく思うと表現しています、「別の管区でも自分の所と同様の状況であると知ること。使徒職の分野での経験を共有すること。」

[スライド 43] 指導者であったひとりのシスターは、言っています、「私は介護を受けている立場であるにもかかわらず、まだ人の役に立てたのです、そしてポーランドのシスターと一緒に仕事をする経験に心が躍り感動しました。」

[スライド 44] もう一人のシスターはこう述べています、「私たちの会話は、ただ語学と文法に関するだけではなく、学習を超えたもっと深いものです。生活の仕方と考え方を理解する上での私の手助けとなっています。」

[スライド 45] 多くの指導役のシスター達は、パートナーの管区の言語、文化について学ぶことができるのは喜ばしいと述べています。修道会の語学学習の指導計画は、ほとんどシスター達の英語習得に集中しています。しかしながら、計画の言語目標 1B では、すべてのシスター達のために、次の実践を奨励しています：

- まだ話し読むのがむずかしい会員は、英語の習得をする。
- すでに英語を流暢に話せる会員は、修道会で使われる他の 1 言語の学習を試みる。

指導プログラムの意外な賜物は、英語圏のシスター達に他の言語の学習を勇気づけ奨励したことです。

[スライド 46] CCTT チームは、コミュニケーションと通信技術の 2 つの作業グループから成ります。そのメンバーたちは語学学習のためのプログラムを評価し、教師や英語圏の話し相手との会話の機会のない人々には、実際の会話練習を増やすことができる方法を模索し

ています。デュオレンゴや、ロセッタ・ストーンなどのオンラインやアプリケーション基盤の言語学習プログラムが、修道会内で使用されています。デュオレンゴは無料で、完全に自動に作用します。一方ロセッタ・ストーンは基本的に無料ですが、教師による実際の遠隔指導が含まれています。

[スライド 47] CCTT チームの言語翻訳作業グループのもう一つの目標は、自動翻訳機能プログラムの評価と助言をすることです。私たちは、グーグル翻訳、マイクロソフト翻訳（スカイプやビングで使用されている）フェイスブックの自動翻訳などのいくつかの一般的なアプリケーションソフトや付加機能を比較してみました。文法的構造が類似する言語、オンライン使用者に広く話されている言語のためのアプリケーションは、概して的確で理解可能なものでした。しかしながら、どれも実際の翻訳家以上のものはまだありません。最良の翻訳アプリケーションは、訂正や文の改良を自発的に提供する多数のユーザーに使用されているものです。

使用者は少数で、アプリケーションもごく限られた地域で展開されている言語については、母国語話者の翻訳の方が、ほとんどの場合、はるかに正確です。

言語翻訳アプリケーションは役に立ちます。流暢とまでは達することはないでしょうけれども、それは少しゆっくりと話し、気楽にはっきり発音することを教えてくれます。またプロの通訳による国際会議の際、休止する合間を前もって知るのに役に立ちます、例えば文構造が全く異なるために、文章間で休止ではない場合などです。

グーグル翻訳やマイクロソフト翻訳は、コンピューターやモバイル機器のための無料のアプリケーションです。どちらも学習する機械、人工知能として急速な改良を展開しています。

通信技術

[スライド 48] 通信技術については、シスター達や信徒職員たちはある程度コミュニケーションテクノロジーの技能知識を持ち、特に使徒職や管区の必要性がある場合には、駆使しています。技能のレベルは幅広く異なり、また種々の要素に影響されています。

電源供給、清浄水、下水施設などの面でまだ不整備な地域では、コミュニケーション接続の可能性にも限界があります。しかしながら、モバイル機器テクノロジーの発展は、こうした地域にも急速な変化をもたらしています。多数の消費者層を持つ広範な市街地にはいくらかの可能性がありますが、がまだ停電も頻繁に起こるため、旧態な設備に対する改善要求も急激に強くなってきています。

[スライド 49] シスター達、アソシエイト会員、信徒職員たちへのアンケート調査や聞き取りに加えて、コミュニケーションの傾向を測るプログラムもあります。ウェブサイト、ブログ、ツイッター、それにフェイスブックといった多くのオンラインサービスは、国家別、言語別の分野でサイト接続に関する統計を出します。また、一覧のためにどのタイプのデバイス周辺機器を使用しているか、どのようにサイトを見つけたかなどの情報も提供します。この写真は修道会サイトの今日のページからですが、これによると 2017 年 7 月には、ホームページ訪問者の多くは米国からで、ウィンドウズコンピューターを使用しているにもかかわらず、インターネットエクスプローラーやエッジよりもクロムやファイアフォックスをウェブブラウザとして利用する傾向があると示しています。

私たちが 2015 年と 2016 年に取った統計では、サイト訪問にモバイル携帯電話やタブレットからアクセスする人の数が増加していることがわかりました。CCTT チームが活動を開始して以来、ドイツ、ブラジル、ポーランドの訪問者の数が劇的に増加したことも知ることができました。

私たちは修道会全域に渡って、接続を広げ、より多くのバーチャルな共同体やパートナーシップを構築するために努力し続けていますが、私たちはこのような修道会サイトやオンライン上の他のサイトからも、何らかの助言となる兆しが見られることを期待しています。もし訪問者数が下降する傾向が出れば、深刻になる前に原因を発見する必要があります。

[スライド 50] CCTT チームの作業グループのひとつは、修道会間で、次のような活動の障害となっている問題点を指摘しています：

- 管区内であるいは国際作業グループの活動、論議への全員参加
- 管区からまた修道会からの報告を即座に受け返答できる接続の可能性
- 修道会関連のバーチャル共同体への加入。(参照 コミュニケーション計画: ネットワーク構築 4a)

[スライド 51] コミュニケーション通信技術がまだ十分整備されていない地域での、改良のための必要経費は、シスター達や共同体が賄える額をはるかに超える場合がほとんどです。

次のような要因からです：

- 特に安定した電源、部品、維持管理の保証も容易ではない所、遠隔で未開発の地域にサービス提供を設置することは事業者にとって高額になること。
- 高額の投資を分配できるだけの十分な数の消費者が居ないこと。

全会員がコミュニケーションを通じて修道会生活に容易に参加できるようになるまで、こうした障害となる問題点を減らしていくことが、私たちの目標です。急速なモバイル携帯電話による伝達の発展によって、通信技術の限界は障害ではなく、目標に達するために最も必要なものは資金調達でしょう。

以上が、コミュニケーション計画が、現在どのように修道会生活を豊かにしているかという私たちの視点です。

前に推し進めること

[スライド 52] この計画の実践を続けていく上での次の段階となる目標を挙げます。

言語能力と文化の相互理解

[スライド 53] 英語個人指導プログラムはうまく機能しています。参加している大多数のシスターが満足しています。幾人かは自発的に更なる先の段階の手助けを始めています。こうしたことが私たちが奨励していることなのです、希望があれば他の言語でも展開される幅広い仕組みの提供を考えています。

[スライド 54] 私たちは修道会全体に渡って、ますます広い地域で仕事をするようになっていきます。認識されず理解されていなかったかもしれない文化的相違に直面するでしょう。そこから軋轢やフラストレーションが生まれるかもしれません。私たちは文化交流と相互理解の機会をさらに増加するように進言します。

[スライド 55] 私たちの視察訪問の際、会議参加方法の改良を求める提案が多く聞かれました。修道会コミュニケーション計画は、言語が問題の場合の会議参加方法を改良する行動企画を含んでいます。（言語、目標 3）これは、遠距離を超えての会議のみならず、視覚聴覚面で問題のある高齢の会員が直面している困難さにも考察しています。私たちは、全会員と管区連絡担当者たちのために、利用可能な最良の実際方法のリストを用意し、会議を催す際の使用を考慮に入れることを勧めています。

ネットワーク構築

目標 3: コミュニケーションプログラム

[スライド 56] 一度ならず、私たちはマザーテレジアの言葉を内在した、多国語による日替わりのアプリケーション作成の要望を耳にしました。また、その日付に亡くなった会員の名前を表示し、意味ある記念日や修道会の催し物なども加えられ、毎日の思索を共に挿入されるというものです。

シスター達や、アソシエイト会員、そして信徒職員は互いにもっと知り合いたいと望んでいます。現在、発行物や情報を共有する職務にあるシスターはごく少数です。修道会のカリスマや使命についてアソシエイト会員や信徒職員を啓発するため、いろいろな形での適切な資料を希望に応じて提供できるようにするべきと考えています。

目標 4: 相互間の連結

[スライド 57] 私たちは共通の方式を有しない国際委員会の場合の、ファイル保存の統一化とクラウドを基点としたファイル共有の可能性を奨励しています。この方式として、修道会で使われるすべての言語が利用でき、スカイプにも応用できるワンドライブを勧めています。すでに別のプログラム（例えば、ドロップボックスやグーグルドック）を利用している委員会や作業グループは、その使用を継続することができます。

ウェブサイトメンバー部門

[スライド 58] 修道会のウェブサイトが新しくなりました。特にすべての翻訳を載せ、管理維持するためにさらなる改良が必要です。しかしながら、今年は、シスター達、アソシエイト会員、信徒職員間の交流の機会を増やすことにしています。このことについてはすでに話しました。このスペースは、現行の会員ログイン部門のようなものですが、さらに対話や資料共有などには、より大きな可能性があります。以下のように:

- それによって互いに共通の使徒職や興味事項を見つけることができ、関わりを築き、連絡網を加えられるような、妥当なレベルの接続によって修道会内の位置や資料がより安全に容易に検索できる方法。
- 各管区の催しごとや修道会リーダーシップが使用するカレンダー上の意味深い日付を共有できるカレンダー。

- 興味を持つ信徒スタッフのための養成の機会。

通信技術

目標 1: インフラ設備

[スライド 59] 修道会コミュニケーション通信技術の進歩と使用評価のために、毎年次の項目の実施を奨励しています:

- 国際委員会や作業グループが、会議開催中、問題なく接続でき、全員の参加を可能にしているかを評価します。この目的のためにアンケートの実施を始めました。
- 言語、デバイスタイプ、位置設定、検索事項、参照情報源などの使用プログラムを評価するために、オンラインの視聴者情報に出ている項目を標準化します。

目標 2: 接続

[スライド 60] 通信技術の必要経費は、いくつかの地域では障害となっていることから、修道会相互コミュニケーションがどの地域でも同様にアクセスできることを目指すために、幅広いレベルでの議論が必要です。またそうした可能性を供給できる費用をいかに得るかについても討議されなければなりません。加えて、修道会レベルでは、ゲルハルディングガー基金からの融資要請を申請していることをお伝えします。

[スライド 61] CCTT チーム内に構成されたセキュリティ作業グループは、修道会使用の各言語での、使用者向きのサイバー安全対策を推し進めています。私たちはまた、修道会枠内で利用可能なビールズ駆除サイト、マルウェアバイツ、あるいは同種のオプトイン方式（メール受信者が受信する以前に拒否できる）のライセンス取得を考えています。この方式は、シスター達が、言語の違いを超えて各管区を渡り移動する際、サポートする技術者の仕事をより容易にしてくれます。定期的な技術サポートのないシスター達のために、すでにいくつかのライセンスを有しています。

[スライド 62] 私たちは、CCTT チーム管区連絡担当者たちに、その地域の共同体を訪問し、コミュニケーション通信技術に関する質問に答えたり、問題を聞いたり意見の交換をするように勧めています。

目標 3: オンライン プレゼンス

[スライド 63] 私たちは、修道会のオンラインプレゼンス計画について作業を続けています。適切なソーシャルメディア環境を識別し、可能性を調べ、修道会のソーシャルメディア上のプレゼンス参加を推し進める展開を目指しています。

結論

[スライド 64] 修道会コミュニケーション計画は、会の生活の一部となり、私たちの統一、相互支援、協力関係の精神を豊かにし、強めています。私たちはさらに前に進んでいきます。

結論として、修道会コミュニケーション計画推進実践作業に携わった数か月の間、私たちは多くの人々からご協力支援を頂きました、ここで心から皆様に感謝を申し上げたいと思います。どうぞ私たち二人に、ご遠慮なく質問や、疑問点、意見を向けてください。